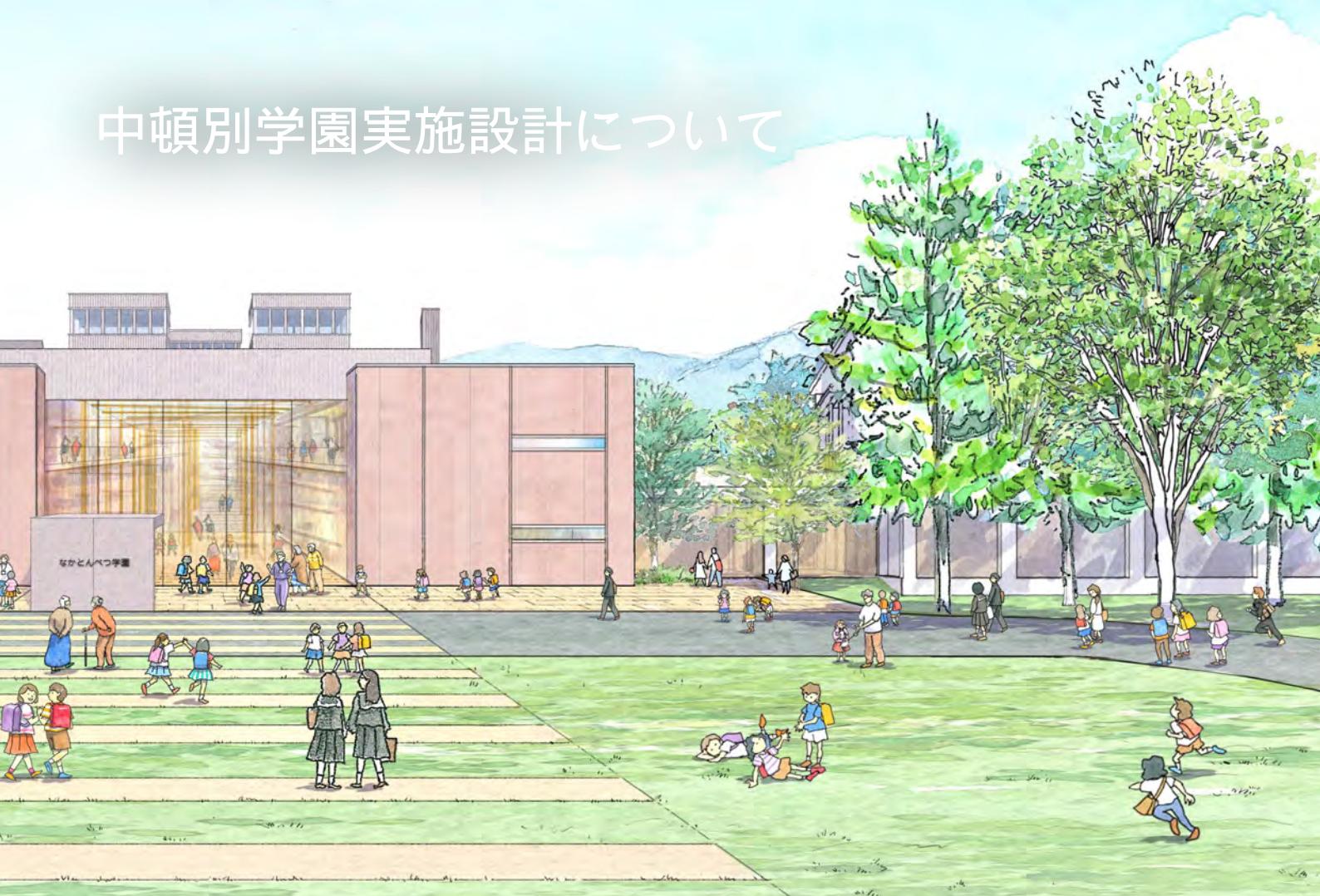


中頓別学園実施設計について



義務教育学校「中頓別学園」は、令和9年3月の完成を目指して準備が進められています。

これまでも、基本設計や義務教育学校に向けた取り組みなどについて誌面でご紹介してきましたが、今回は、実施設計の内容を踏まえ、あらためて中頓別学園の施設や工事の予定などについてご紹介します。

「中頓別学園」構想のポイント

中頓別学園は、大人も子どもも生涯を通じて使うことができる施設で、4つの構想のポイントがあります。

一つ目は、教育委員会が同じ施設内にあることです。これは全国でも初の試みとなっています。教育委員会が同じ施設にされることで、町が学校教育をサポートすることができます。

二つ目は、幼児教育積み上げ型の教育です。制度上の義務教育学校は小学校と中学校の9年間をいいますが、中頓別学園ではこども園の3歳児からを含めた12年間を考え、幼小中での一

貫した教育を進めていきます。

三つ目は、先導的な学びです。

令和4年度に、文部科学省の「新しい時代の学びの環境整備先導的開発事業」の委託を受けました。中頓別学園では、可能な限り未来思考の教育を行います。

四つ目は、教育と支援の融合です。現在中頓別町で行われている「なかとんネウボラ」や「若者ケア会議」、「なかとんフリースクール」などの関係機関と連携し、乳幼児期から途切れるこのない支援を行います。

地域の方が活動している姿や、学んでいる姿が子どもたちから見えることで学びのつながりとなります。中頓別学園は、学びのつながりの拠点となることが期待されています。

「中頓別学園」でできること

中頓別学園は、教室や職員室などの「学校教育ゾーン」と、子育てルームなどの「社会教育ゾーン」、図書館や音楽室などの「共用ゾーン」の3つに分かれおり、多くの場所が町民の方も利

中頓別学園

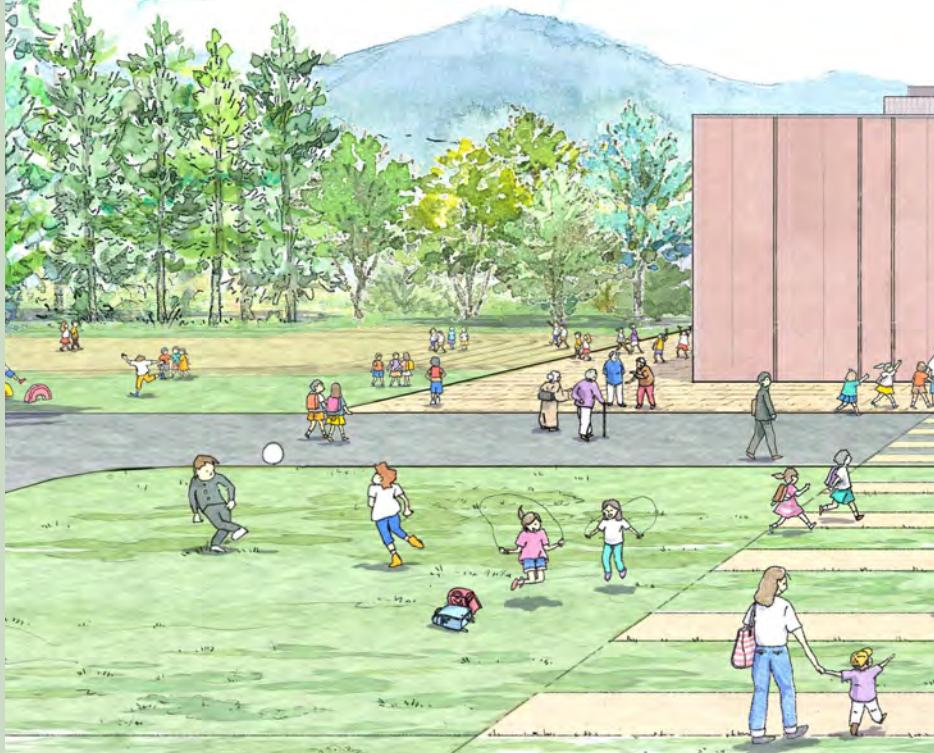
イメージイラスト

右のイラストは、中頓別学園を、正面から見たイメージ図です。

施設中央のガラス張り部分が入口となっており、子どもたちもこの入口を使用して登校します。

建物の手前にある芝生の部分は現在町民センターが建っている位置です。町民センターが解体され、施設の前に車道と歩道が整備されるため、通学バスが安全に乗り入れることができます。

校舎の右側の建物は現在の体育館で、そのまま使用されます。



義務教育学校とは？

2016年に制度化された新たな学校種です。小学校から中学校までの義務教育を一貫して行います。

「義務教育学校」は9年間を見通した教育目標を掲げ、教職員が小学校・中学校で分かれることなく指導にあたります。

学年の区切りの決まりがなく弾力的な運用が可能で、中頓別学園では1年生から4年生、5年生から7年生、8年生と9年生と3つに分ける予定です。

校舎完成前の令和8年度から義務教育学校中頓別学園が開校し、教育課程が始まります。

用できます。

図書館には、本や雑誌を読むことができるベンチや、落ち着いて読書をしたり、学習できたりするスペースがあります。

音楽室では、楽器演奏を行うことができ、音楽スタジオではカラオケもできます。

アリーナは、町民センターのホールのような利用が想定されています。また、トレーニングルームが併設されるため、冬でも運動できる場となることが期待されています。

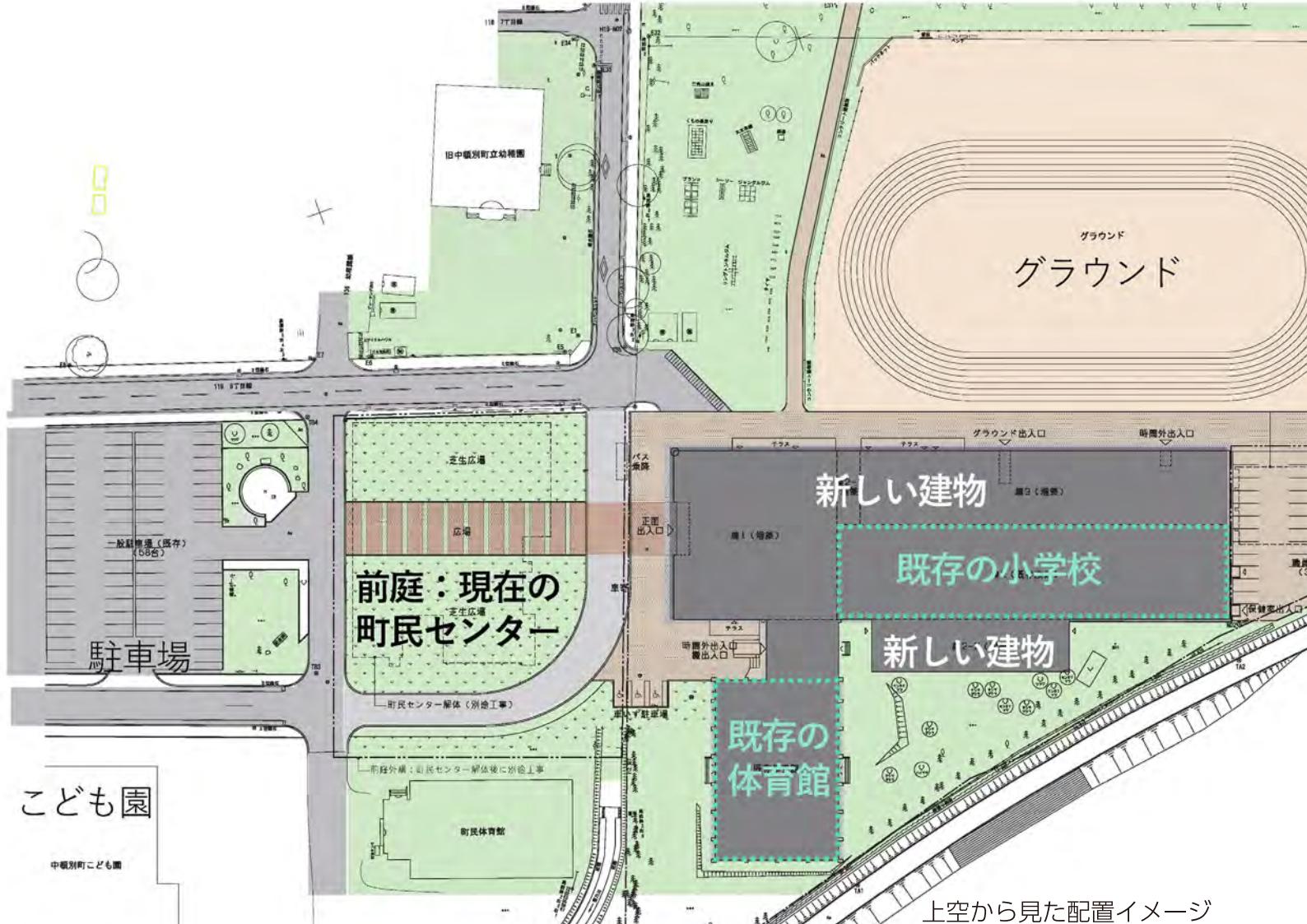
木工室や美術室では、DIYや

裁縫、手芸、陶芸などを行うことができます。

また、災害時は非常用発電で電気が使え、暖房が機能し携帯電話の充電ができる避難施設となります。

中頓別学園は多くの人が出入りする施設となるためセキュリティ対策を行います。施設の入口にカウンターを設け、教育委員会の職員による目視で入館する人を確認します。また、「学校教育ゾーン」にはドアが設置され、必要に応じて閉めることができます。

中頓別学園は多くの人が出入りする施設となるためセキュリティ対策を行います。施設の入口にカウンターを設け、教育委員会の職員による目視で入館する人を確認します。また、「学校教育ゾーン」にはドアが設置され、必要に応じて閉めることができます。



上空から見た配置イメージ

工事について

中頓別学園の工事は、令和6年秋から準備工事が開始され、施設の完成は令和9年3月となる予定です。

工事の期間中は小学校の校舎が

使用できないため、小学生は令和7年1月に中学校校舎へ引っ越しを行い、中学校校舎で小学生と中学生の共同生活が始まります。

今年の秋頃に、中学校の校舎の改修を行います。内容は、少人数教室確保のための壁の設置、玄関の扉の入れ替え、階段に落下防止パネルや手すりの設置、トイレの改修などです。小学生が安心して中学校で生活できるように準備を行う予定です。

中頓別学園の工事は、現在の小学校を全面改修しながら、新しい建物を増設します。現在の小学校は残るため、新しく作るアリーナなど一部の壁が現在の小学校の外壁になります。

中頓別学園の校舎の広さは現在の小学校の約2・4倍の広さとなります。グラウンドや遊具はそのまま使用することとなります。

老朽化している町民センターや

給食センターの施設は解体し、中頓別学園内にその機能を移します。現在の町民センター部分は広場となり、イベントでも活用することができます。

将来を見通して

公共施設の建て替え目安は約50年とされています。

中頓別中学校は築55年が経過し建て替えが必要な時期となっています。中頓別小学校も築37年が経過しており、約10年後に建て替えが必要になります。町民センターが築45年、給食センターが築51年となっており、どの施設も建て替えの検討が必要な時期となっているため、今回一体的な施設として設計を行いました。

小学校を増築するので大きな施設ができるようになりますが、現在の小学校、中学校、町民センター、給食センター、図書館を合わせた面積よりもコンパクトな施設となります。

中頓別学園 事業費内訳

総事業費 約46億5,800万円

国庫支出金 約12億1,300万円	町債 約34億4,400万円	一般財源 約100万円
	地方交付税措置分 (町債70%) 約24億1,100万円	町費負担 (町債30%) 約10億3,300万円

第1回保護者説明会開催

7月30日、中頓別町民センターで、第1回保護者説明会が行われました。

当日は10時と18時の2回に分けて行い、81名の保護者や学校関係者が参加し、仮校舎(中学校)の設計や中頓別学園の実施設計、義務教育学校での教育について説明が行われました。

次回は11月に開催予定で、仮校舎の通学路や放課後子どもプランの利用、日課表などについて説明が行われる予定です。



財源について

中頓別学園建設工事の全体事業費は令和6年3月時点で約46億5,800万円となっています。

歳入の見込み額は、国からの補助金（学校施設環境改善交付金、公立学校施設整備負担金、デジタル田園都市国家構想交付金地方創生拠点整備タイプ）が約12億1,300万円、町債（過疎対策事業債）が約34億4,400万円で合計46億5,700万円となっています。

町の負担額は町債の金額となります。しかし、過疎対策事業債は元利償還金の70%が地方交付税により措置されるため、残りの30%と端数を合わせた約10億3,400万円が実際の負担額となります。